

# 銅 概 況

大阪市中央区玉造 2 丁目 28 番 10 号  
加藤金属興業株式会社

## ◎ 平成 31 年 3 月の国内電気銅建値は下記の通りです。

3 月	1 日	～	770 円/Kg
3 月	11 日	～	760 円/Kg
3 月	26 日	～	740 円/Kg

平成 31 年 3 月度は平均で 759.00 円/kg となり、前月比 24.80 円/kg の値上がりとなりました。

### 海外銅価の動き

3 月の LME 銅相場	3/1～ 3/29 (安値ドル 6,328.00～6,553.60 高値ドル)
3 月の NYC 銅相場	3/1～ 3/29 (安値セント 283.60～293.60 高値セント)

3 月度の LME 現物は、3/1 \$6,572.00 でスタート。中国経済の減速による世界経済への影響が懸念される中、2 月の PMI (製造業購買担当者景況指数) は 49.2 で 3 年ぶりの低水準となった。しかし、5 日に開幕した中国全国人民代表大会で李克強首相が大規模な減税を表明したことなどから、需要の見通しが高まり投資意欲もやや回復。また同時期に英国の EU 離脱についても、延期との憶測が広がり後押しの材料に。ところが、14 日に中国の 1-2 月鉱工業生産は前年同月比 5.3% 増に留まるなど、2002 年初頭以来の低い数字との発表があり、銅の最大消費国中国の成長鈍化は避けられない内容に失望感は否めず急落する形となった。また、LME 在庫は近年にはない低水準から更に減少する状況となり、11 万 t まで減少した。ただ、14 日の発表からは逆に増加し 2 日で 18 万 t に回復するなど、思惑が目立つ動きに。また、世界最大規模のペルー・ラスバンバスの銅山の供給障害などの需給懸念などの動きもあり、相場は買い・売り材料の交換状態となり結果、3 月の LME 現物の価格は \$6,300～\$6,500 の狭い範囲での動きでの推移となった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2018 年 10 月 資料より (単位/千トン)

	2017年 実績	2018年 実績	前年比	2019年 予想	前年比	2020年 予想	前年比
全世界地金生産	23,078	23,491	+1.8%	23,998	+2.2%	24,917	+1.9%
全世界地金消費	23,136	23,703	+2.5%	24,234	+2.2%	24,665	+1.5%
全世界需給バランス	-58	-211		-236		-202	

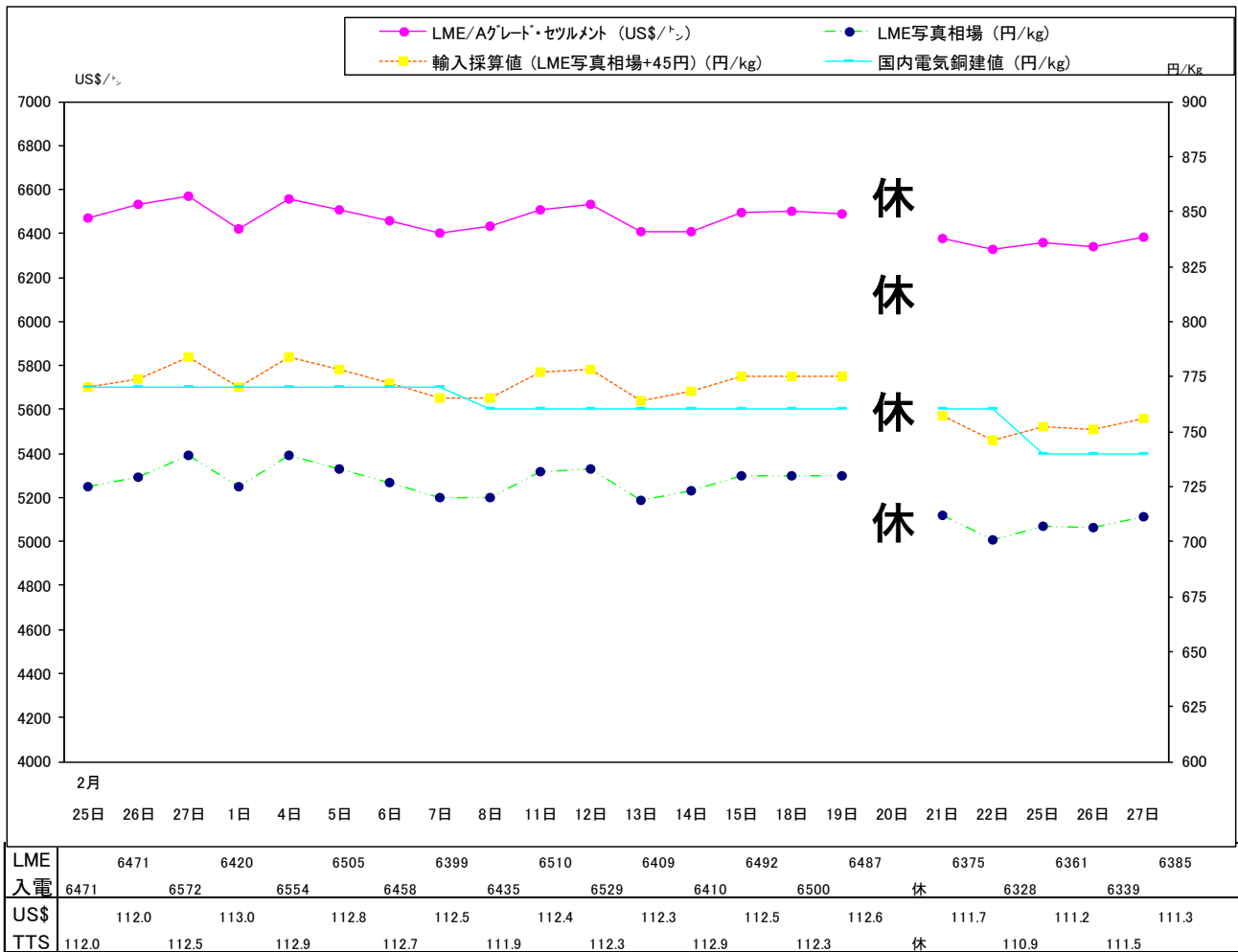
### 先行き短期見通

#### 国内銅価

3 月度の国内建値は 1 日 770 円/kg でスタート。LME 現物は、全体としては徐々に下げの傾向となり、為替においては円高傾向となったため、動き幅としては大きくないものの、14 日は 760 円、26 日には 740 円と下げる国内建値となった。

3/28 付 LME \$6,385.00、28 日付 為替 (TTS) 1USD=111.37 円で日本円換算計算値 711 円/kg。2019 年 4 月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り 750 円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 平成31年3月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 3月 1日 ~ 361 円/kg
- 3月 7日 ~ 364 円/kg
- 3月 13日 ~ 373 円/kg
- 3月 19日 ~ 361 円/kg
- 1月 26日 ~ 370 円/kg

平均365.80円/kg

平成31年3月は上記の通りで前月比 17.40円/kgの値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	3月	294.90	円/kg	(前月比+	3.90	円/kg)
電気錫(相対)	3月	3,770.00	円/kg	(前月比+	20.00	円/kg)
ニッケル(溶解用)	3月市中価格	1,550.00	円/kg	~	1,600.00	円/kg
銀	2月平均	57,560.00	円/kg	(前月比+	1,690.00	円/kg)
	3月29日	55,100.00	円/kg			
金	2月平均	4,710.42	円/g	(前月比+	157.63	円/g)
	3月29日	4,630.00	円/g			

◎ 伸銅品関係

平成31年2月の伸銅品・品種別生産速報(全国ベース)

		1月度実績	2月度速報	前月比	前年2月度実績	前年同月比
銅	板	1,475	1,358	-7.9%	1,349	0.7%
	条	20,987	21,609	3.0%	22,198	-2.7%
	管	8,424	9,090	7.9%	9,039	0.6%
	棒	2,060	2,266	10.0%	2,295	-1.3%
	線	241	260	7.9%	285	-8.8%
黄銅	板	432	610	41.2%	540	13.0%
	条	8,751	8,821	0.8%	9,094	-3.0%
	管	481	500	4.0%	653	-23.4%
	棒	14,500	15,406	6.2%	15,815	-2.6%
	線	1,966	2,083	6.0%	2,478	-15.9%
青銅	板	2,113	2,446	15.8%	2,743	-10.8%
	条					
	棒	197	237	20.3%	231	2.6%
	線	53	65	22.6%	79	-17.7%
洋白・その他	板	408	461	13.0%	487	-5.3%
	条					
	棒	42	36	-14.3%	51	-29.4%
	線	344	391	13.7%	434	-9.9%
合計		62,474	65,639	5.1%	67,771	-3.1%

2月の伸銅品生産速報は、65,639トンで前月比プラス3,165トン、前年同月比-3.1%となり、前年同月比が3ヶ月連続でマイナスとなりました。

## 電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の18年12月分実績及び19年1月分推定によれば、12月分実績は、主力の建販が前年同月比で1.1%増加したものの、電気機械が中国経済の減速などで同6.8%下降したことが大きく響き、総計は5万6千743tで同1.3%減と3ヵ月ぶりに前年数値を割り込んだ。

一方、1月の銅電線の出荷推定では、電気機械とその他内需の減少に加え通信、電力も不調だったものの、建販と自動車が増加して総計では5.45万tで同2.9%増える見通し。また、12月分の部門別出荷をみると、プラスグループは通信、電力、自動車、建販の4部門。その中で通信は建販に連動する面があることや、高周波同軸も動き同15.2%増と2ヵ月振りに増加した。電力は一部張替え需要が動き同0.2%伸びた。ただ1月には再び減少する見通し。自動車は、台風の影響などから抜け出し生産台数も伸びており、同2.5%伸長した。建設電販も東京五輪施設、首都圏再開発案の需要がようやく本格的に動き、2.82万t強で同1.1%増加した。マイナスグループは電気機械、その他内需、輸出の3部門。うち電気機械は、米中貿易摩擦による中国経済の減速等が左右し機器用電線が下降し、同6.8%減と大幅に低下した。その他内需も電気機械の影響を受け同9.9%減と不調だった。輸出は、一部の案件等が動いたが、おしなべて低調で同4.3%減少した。

### 2018年12月分(実績)・2019年1月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	12月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	1月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	12月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通 信	880	7.4	15.2	700	▼ 20.5	▼ 7.5	1,393	(▼3.7)	▼ 0.4
電 力	(1,151) 3,117	(▼28.1) ▼ 31.5	(8.4) 0.2	(1,500) 3,700	(30.3) 18.7	(21.4) ▼ 2.3	947 3,754	(▼20.5) ▼ 31.6	(23.5) 7.1
電 気 機 械	(367) 11,589	(▼13.2) ▼ 9.3	(▼10.9) ▼ 6.8	11,300	▼ 2.5	▼ 2.4	361 16,045	(▼12.4) ▼ 9.4	(▼7.2) ▼ 4.4
自 動 車	(119) 7,253	(▼ 16.8) ▼ 9.9	(30.8) 2.5	7,000	▼ 3.5	9.8	525 33,945	(▼ 13.4) ▼ 8.5	(37.4) 8.7
建 設・電 販	(16) 28,207	(▼23.8) ▼ 9.4	(0.0) 1.1	25,900	▼ 8.2	4.4	16 32,746	(▼38.5) ▼ 10.2	(45.5) ▼ 0.7
そ の 他 内 需	(42) 3,928	(▼46.2) ▼ 14.9	(▼33.3) ▼ 9.9	(600) 4,100	(10.3) 4.4	(17.6) ▼ 2.8	56 6,630	(▼23.3) ▼ 12.3	(1.8) ▼ 4.6
内 需 計	(1,695) 54,974	(▼25.2) ▼ 11.2	(3.1) ▼ 1.2	(2,100) 52,700	(23.9) ▼ 4.1	(20.3) 2.3	1,905 94,514	(▼17.5) ▼ 10.7	(18.8) 1.8
輸 出	(1) 1,769	(▼99.7) ▼ 20.6	(▼80.0) ▼ 4.3	(30) 1,800	(29900.0) 1.8	(▼1.3) 27.1	7 5,759	(4.7) ▼ 6.2	(▼53.3) ▼ 11.3
合 計	(1,696) 56,743	(▼34.3) ▼ 11.6	(2.9) ▼ 1.3	(400) 54,500	(41.5) ▼ 4.0	(17.1) 2.9	1,912 100,274	(▼22.2) ▼ 10.4	(18.1) 1.0
心線販売	(1,460) 28,843	(▼2.6) ▼ 14.8	(41.6) 0.5	(1,500) 27,000	(2.7) ▼ 6.4	(33.3) ▼ 3.8	400 21,306	(▼2.4) ▼ 13.7	(48.7) ▼ 4.6

(注) ( )内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。  
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

### 2015年3月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品 種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比	
裸線	5,338	▼ 1.7	2.8	4,349	▼ 11.1	0.2	
巻線	11,748	3.0	▼ 2.3	11,920	2.8	▼ 1.6	
機器用電線	3,485	▼ 0.2	▼ 4.1	10,178	▼ 0.1	▼ 1.9	
通信用電線・ケーブル	1,948	15.7	11.2	4,111	10.3	1.1	
電力用電線・ケーブル	23,110	5.5	1.8	26,145	10.7	2.6	
被覆線	11,306	6.6	▼ 9.1	16,165	0.9	▼ 9.8	
輸送用電線	5,538	4.0	▼ 2.6	46,568	11.6	3.4	
銅電線計	62,473	4.4	▼ 1.5	119,705	6.9	0.1	
EM電線・ ケーブル	通信用電線・ケーブル	76	▼ 3.8	▼ 16.5	279	1.8	▼ 5.7
	電力用電線・ケーブル、被覆線	2,787	▼ 16.0	▼ 6.3	3,372	▼ 16.1	▼ 6.7
	計	2,863	▼ 15.7	▼ 6.5	3,651	▼ 14.9	▼ 6.5
アルミ電線計	3,687	51.0	15.3	2,298	31.2	4.0	
光製品	4,434,484	23.8	28.6	32,196	53.0	29.8	
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	6,186	68.7	53.3	

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ アルミニウム関係

- 国際アルミニウム地金相場、第1週、第2週は、不調に終わった米朝首脳会談に加え、中国PMIは3ヶ月連続で節目の50割れの結果となり、同国の経済減速を示したため軟調なスタート。中国全人代で19年のGDP成長目標が18年実績の6.6%を下回る6.0~6.5%に設定されたが、一連の刺激策で景気を下支えすることが約束されたため、相場への影響はなかった。ECBは定例理事会で年内の利上げを取りやめたほか、19年のEU成長予測を1.1%に大幅に下方修正。第3週、中国2月貿易統計で前年同月比20.7%減と急激に落ち込んだことから軟調に推移。中国、欧州の経済減速懸念から、一転、英国のEU離脱に関し合意なき離脱が回避されたことにより緊張感は緩和。また、中国1~2月アルミニウム生産高は569万トンで前年同期比5%増。冬季減産の影響が限定的である事が伺える。第4週、インドVedantaのアルミナ製錬所の死者が出るほどの抗議活動は、製錬所への原料供給路の鉄道封鎖など、生産障害の懸念から相場は底固く推移。最終週、欧州に加え、米国のPMIにも予想以上の落ち込みが見られると世界的な景気減速懸念が広がる。しかしながら世界同時株安によるリスクオフムードは、やや後退し株価が値を戻す中、アルミ相場も\$1,900台へ回復。また、19年Q2プレミアムは\$105で妥結との報道があった。米中通商協議や英国のEU離脱の不透明感から上値は抑えられそうであり、当面は\$1,870~1,930での展開の予想。

○ 対日オファー及び国内価格

- ・対日オファー（CIF） 2019年 3月積 1,998.00~2,012.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2019年 3月積 238.60~240.30 円/kg
- ・NSP 2019年 1月 254.20 円/kg
- ・NSP（メーカー対応価格） 2019年 4月~6月 270.00 円/kg

○ IAI統計アルミニウム新地金生産高（単位=千トン）

	'19年1月	'19年2月	'18年2月
月生産	*2,335.0	2,140.0	2,157.0
平均日産	*75.3	76.4	77.0

(\*＝訂正有り) 中国は対象外にしております。

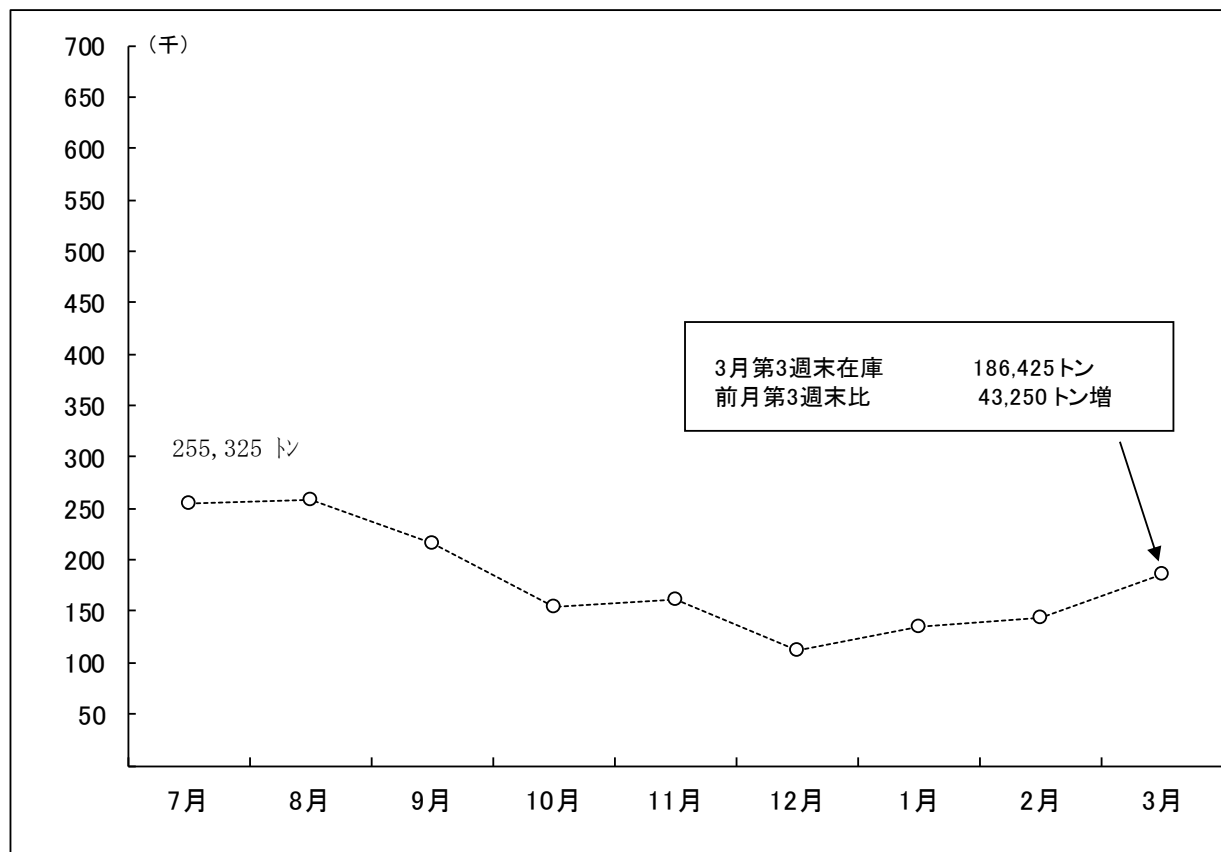
○ アルミインゴット港湾在庫

(単位：トン)

	2018年11月	2018年12月	増減	2017年12月	増減
横浜	145,200	150,700	+5,500	117,300	+33,400
名古屋	135,200	151,100	+15,900	102,600	+48,500
大阪	15,000	15,000	±0	15,000	±0
合計	295,400	316,800	+21,400	234,900	+81,900

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・ 31年3月15日現在 49,580 S T 前月比 20,665 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・ 31年1月末 113,933 トン 前月比 15,280 トン増

◎ 伸銅品生産実績

・ 31年1月確報 62,474 トン  
 ・ 31年2月速報 65,639 トン 前月比 104.5 %

◎ 電線出荷実績

・ 31年2月速報 56,600 トン 前月比 103.9 %

◎ 軽圧品生産実績

・ 31年 2月	板 類	93,352 トン	
	押 出 類	63,740 トン	
		<hr/>	
		157,092 トン	前月比 110.0 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。